

ジョージタウン日記（2007年度版）



第1日目（2／8金）出発！

今年は昨年の教訓を生かし、空港に早めに集合し、学生達は荷物の移し替えをチェックイン前に行い、罰金5000円（昨年より額がさらに上がった！）を誰も払わずに済み、無事に機上へ。ところが、飛行機が滑走路に向かったところで右エンジンの電気系統にトラブルがあることが判明（NWは故障による遅延が多すぎますね）。いったん引き返し機内で待たされること約2時間。

ようやく修理が済んだということで離陸。乗る前に、ストレッチをしたり、機内でも動き回ったりするよう指示したので、今年は誰も気持ち悪くなることなく、トランジットも済ませ、DCの **Reagan National Airport** に着陸。

DCは天気も良く珍しく暖かい日で、向かえに来てくれた今年の英語の先生 **Sara** にも無事に会え、シャトルバスのところへ。ところが、なんとシャトルバスは2台しか来ておらず、しかも行き先をまたドライバーが良く分かっていない様子。**Sara** が行き先をあれこれ説明し、もう1台を呼んだりして待たされることに……。ただし、最後の1台もほどなく到着し、リーダーの学生の一人が地図を調べて持ってきていたこともあり、今年は混乱なく、ステイ先3カ所までシャトルバスでまとまって移動し、そこから、各ホストに向かえに来てもらったので、昨年のようにシャトルバスでぐるぐる2時間も3時間も回るということはありませんでした。

ただし、学生2人のホストは、今日彼らが着くことを忘れており（!）、向かえが遅くなったようで、ホームステイゆえの問題が今年も早速発生していました。

私は、学生達を見送った後、同じシャトルバス会社にもその場で予約をし、**Sara** とも別れ、これから3週間を過ごすホテルへ。

とりあえず、初日が無事にスタートし、ほっとしたのです。

第2日目（2／9土）DC 見学初日

ES の加嶋ちひろさん（**DUDP** の3回生）と昨年7月まで本学で英米法を教えてくれて

いた Albert Ting さん（中国系アメリカ人）の案内で DC の市内見学へ。10時半に昨年と同様、Rosslyn 駅に集合し、まずは分かりにくい Georgetown 大学のシャトルバスの停留所を確認し、土曜日でシャトルバスがなかなか来ないと天気の良いのとで、そこからポトマック川の橋を歩いて渡って大学へ。

授業初日の集合場所である Library の場所を確認し、大学の様子も見て、昨年のような迷子はないようにしたところで、今度は大学の別のシャトルバスを使って、若者の街 Dupont Circle へ（このバス停を使う学生もいたのでこちらも確認し）、街の雰囲気だけ見て、お昼を食べにチャイナタウンへ。

Ting さんのおすすめの中華料理店に入り、円卓を3つのグループで囲んで本格庶民派中華を堪能。飲茶系や麺類をいくつか注文。知らぬ間に私のテーブルは北京ダックを学生が頼んでおり（こらこら値段を見たのかしら？と思いつつ）、ちょうど中国の正月の時期にふさわしいメニューを頂くことに。数人でシェアしたので、一人9ドル程度ですんだので、good choice!だった、ということでしょうか（笑）。

その後、リンカーンが暗殺された Ford 劇場や最後の時を迎えた宿の記念館、イギリス発祥のマダム・タッソーの蝨人形館などを見学し、昨年と同様 Pentagon City にショッピングへ。

お夕飯は、駅の外のピザ屋にて、みんなで大きなピザをいくつかシェアして食べました。アメリカ南部風のクレオールソースのピザなどもトライし、いろいろな味を楽しみました。チップ（DC は飲食の場合 15%~20%）を払うのにいちいち計算するのがまだ慣れず、みんなであたふたしましたが、今日一日で地下鉄の乗り方や食事の仕方も何となく分かったところでした。

第3日目（2／10日）DC 見学2日目

今日は、また Ting さんの案内で、去年は行ったことのない Eastern Market に。週末は Flea Market(のみ市)があるということで行ったのですが、まずは、みんなでアメリカ人っぽく、Brunch を。普段は朝早く起きて活動するアメリカ人も、日曜だけは安息日でゆっくり起きて朝昼兼用の Brunch をワインなども飲みながらゆっくり楽しむ習慣を、われわれも真似してみました（とはいえワインはなしですが・・・）。So Cool!

Flea Market では、ちょうど大統領選挙の Primary (予備選挙) を次の火曜日に控えて、支持者がキャンペーンをしていました。Hillary のシールやポスターを、投票権のない私達も勢いで(!)もらいました。ただ、それはアフリカ系アメリカ人で Hillary を指示する人たちのキャンペーンだったようで、後日、このシールをかばんに貼っていた学生がほかのアフリカ系アメリカ人の方に喜ばれて、このことが判明（政治や宗教に良くも悪くも関心のない日本人ゆえの行動をわれわれはしたようですが、とりあえず良しとしてもらいましょう・・・（笑））。

次に、スミソニアン博物館の目玉である、航空宇宙博物館へ。様々な展示(触れる月の石や第二次世界大戦時の日本の飛行機や軍服もある)を見たり、360度回るアトラクションに乗ったり、宇宙食を買ったりして、宇宙気分を満喫。

その後、寒い日なのと明日から授業が始まるのとで早めに帰るべく、学生の多くがホームステイしている近所の Pentagon City へ。イエローラインの地下鉄で戻り（アメリカの

地下鉄は色で路線が分かれている)、Food Court で、歩き回って疲れた足を休めつつ、おしゃべりして時間をつぶし、軽めの夕食をとって解散し、明日への準備のため、それぞれ帰宅しました。皆さん、だいぶ DC の街に慣れてきたようです。

第4日目 (2/11月) 授業 Start !

今年の開会式は、アメリカらしく、コーヒーと果物がサーブされ、リラックスした雰囲気が始まりました。プログラム責任者の Christa のあいさつに始まり、全員が自己紹介。お決まりの VISA 関係の手続(いつもながら誰か何か忘れる(笑))を行なった後、メイン・キャンパスツアーへ。

私は皆さんと離れ、CLED Center の人たちと例の素晴らしい Faculty Lounge でお昼を(食事の詳しい内容は2007年度参照)。今年も、デザートのパン・プディングまでしっかり堪能しながら、今年のプログラムの予定などを改めて確認し、昨年と一緒のメンバーや英語の教師の Sara と交流したのです。Sara は、ドイツ系アメリカ人ですが、ロシアに2年いたこともあり、フランス語・ロシア語もできるとか。ただし、ドイツ語は今年始めたばかりと言っていました。

午後は、今回の教室のあるサテライト・キャンパス(@Clarendon)に移動し、授業スタート。新しい建物のきれいな教室で、しかも当然ながら机があり、いすがあり、暖房があり、しかも簡易台所のような所に電子オーブンまであり(笑)、充実した施設で今年は良かったです。しかも、地下鉄からすぐなので、通うのに便利。ただ一つ欠点は、PC ルームがそこにはないこと。最終日のプレゼンのために、PC がない人は、メイン・キャンパスに行かざるを得ないようですが、普段は何とかなるのでしょうがないですね。

また、一人の学生の Host Family にいろいろ問題があり、すぐに代えてほしいということで、Sara に電話してもらうことに。授業の後には、次の Host が決まり、その日のうち移動できたようで良かったです。

第5日目 (2/12火) Capitol へ!

午前中の授業を終え、皆さん午後は Capitol(議事堂)へ! DC の中心に座るこれを見ることの意義は大きいでしょう。私は、メイン・キャンパスの CLED へ行き、完了していない学生の VISA 関連の手続の続きや別の学生の Home Stay に始まる諸処の問題を処理しに。非常に寒い日になり、DC の本場の寒さを体感することになりました。今日は、DC や VA、MD の予備選挙(通称、Primary)の日で、ニュースはそれで持ちきりでした。

第6日目 (2/13水) Wanna Go to Jail?

今日の午後は Detention Center (a kind of jail=拘置所) へ。パスポートを忘れる人が2名もいてどうなるかと思いましたが、全員同じグループであるとか学生で問題がないとか言ったら、特に厳しいことを言われずにパスしました。アメリカ社会は、その人の権限により話が変わることが多いのですが、今回は助かる方向で良かったです(笑)。

ただ、今日は security が厳しくて、歩き回っている拘留者達 (inmates) を見ることはできませんでした。職員同士の話を漏れ聞いたところでは、一人の inmate がどうも放浪

していて、厳戒態勢になっていたようでした。

その後、Public Defender*の Vanessa さんの話を聞きに彼女の事務所へ。すぐそばにあったのですが、とても豪華で素敵な (awesome!) 事務所でびっくり。Vanessa さんはアフリカ系アメリカ人で、とても気さくで陽気な方でした。VA やアメリカの刑事司法およびご自身の仕事について詳しく語ってくれましたが、彼女は実はバプティスト教会の司祭でもあられ、公選弁護人としてのみならず、カウンセラーとしても、この仕事に非常にやりがいを感じているとのことでした。Vanessa さんのいる事務所には、14 人の公選弁護士がおり、一人平均 40 件程度のところ、彼女は現在 101 件事件を抱えているとかで、かなりのハイペースでお仕事をされ、有能であることがひしひしと伝わってきましたが、”This is my job!”との言葉に、学生が特に感動していました。たしかに、天職を見つけられるというのは、幸せなことですよ…。

ところで、弁護を有能にやりすぎて本来有罪の人を無罪にした場合について、司祭のモラルの問題としてどうか、という質問に対し、彼女は、その人が有罪か無罪かは彼女が判断すべきこととは考えておらず、そのような結論が出た場合、いずれ神様や別の形による裁きが下ると思っているから良いのだ、と答えていました。さすが彼女ならではのお答えに、なるほど、とうなってしまうました。

* Public Defender

アメリカの刑事訴訟では、訴える側が Prosecution (検察) という国家機関が行うのに対し、訴えられる側の被告人 (Defendant) には、弁護人として、Private Attorney (私的弁護人) や Court Appointed Attorney (国選弁護人) のほかに、Public Defender (公的弁護人) という国家機関が存在する (日本にはこのような機関は存在しない)。Public Defender は、刑事事件における貧しい被告人の弁護のために存在する常勤公務員であり、給料は検察と同様、国家や州から受け取っているわけであるが、検察が被害者や公的利益のために働くのに対し、Public Defender は、被告人の人権保障のために働いている。

第 7 日目 (2 / 14 木) Valentine's Day!

目下 DC では、大統領選挙の Primary と Valentine's Day で街中は熱い感じですが、火曜日は Primary、今日は Valentine Day で hot!というところでしょうか。

そんな中、われわれは、ロースクールの Rick Roe 先生の案内で、二つに分かれ、二つの DC の公立高校をそれぞれ見に行きました。入口でセキュリティ・チェック(学生が銃刀類を持っていないか毎朝チェックしている)を受け、ローの学生が実習で行っている Street Law (高校生に模擬裁判を行わせる授業) の教室へ (2 人の弁護士さんがつき、高校生が模擬裁判のための勉強をするのを監修するなど、立命館で言う訴訟法実務入門での模擬裁判と同様のシステムですが、直接教えるのが法科大学院生であり、彼らは実習の単位として行っている点が異なります)。

ちょうど、直接尋問の練習をやっていましたが、アメリカの当事者主義の醍醐味をみるのができ、非常に面白かったです。直接尋問が誘導尋問にならないよう、証人にいかに答えさせるかといったテクニックなどを高校生達が (!) 習っていました。

その後、Georgetown の Law School に戻り、それぞれのグループが何を見てきたか、お互いに感想を報告し合いました。また、昨年と同様、どのような行為が罪になり、どの程度の重さになるか、立法者になって考えるという授業などを行いました。

午後は、ロースクールの演習を見学しました。ロースクールの豪華な図書館や体育ジム施設も Roe 先生のご好意でいろいろ案内して頂きました（次の日の朝、そのジムでバスケットをした学生もいたようです）。

第8日目（2／15 金）

今日は昼頃集合し、Roe 先生達が設立された charter school（特殊性を持つ公立高校のこと。この Thurgood Marshall Academy は、法学教育の双方向式メソッドで高校生に教育を行うのが特長）見学へ。



昨日の一般的な公立高校に比べ、設備がすばらしく、セキュリティ・チェックもなく、自分たちのアイデンティティを誇る制服があり、学生達のやる気も熱意も高いなど、大きな違いがありました。1 学年 120 名の小さな高校ですが、貧民層のアフリカ系アメリカ人の子達を、着実に大学に進学させています。

まだまだ、卒業率が低い（家庭や隣人環境が変わらないため、せっかく学校でいい教育を受けても、途中でドロップ・アウトする学生も多い）ことが課題のようですが、Roe 先生は、様々な寄付金集めに奔走しながら、学校をよりよくする活動を行っていらっしゃいます。勉強すれば成功できるというアメリカン・ドリームを正に実現させるべく、奮闘されておられる Roe 先生の話のを伺い、みんなの中には感動して涙ぐむ人も…。

また、アメリカの学生の授業に対する積極的な姿勢を目の当たりにし、自分たちの授業を受ける態度を少し反省したようにも見受けられましたが、どうですかね？！（笑）

その後、アメリカン大学を ES の加嶋さんの案内で見学し、大学のそばの駅にてみんなでお夕飯を。今日はメキシコ料理を堪能しました。

とりあえず、日本を出発してから長い一週間がようやく終了しました。

第9日目（2／16 土）これぞ DC 観光？！

先週は混んでいて入れなかったスパイ博物館に再チャレンジ。無事に入れてみんなです

パイ体験を。英語の壁が若干あって十分とは言えませんが、それなりにアメリカ人としてのスパイ体験を楽しみました。その後、みんなでワシントン・メモリアルからジェファソン・メモリアルを散策。天気が良かったので、ワシントン・メモリアルの上階から、DCを一望しました。また、リンカーン・メモリアルまで、映画「フォレスト・ガンプ」の有名なシーンをみんなで思い出しながら歩きました。みんな、すべての建造物や景色とにかく感動したようで、見ている私もとてもうれしかったです。

歌手のアンジェラ・アキが歌ったポトマック川の桜並木（現在は当然枯れ木並木ですが（笑））の下もみんなで歩きました。

夕日が沈むまで、その辺りにたたずみ、首都DCの壮大な景色を体感しました。

第10日目（2／17日）自由行動

それぞれ買い物にスミソニアン美術館にと、好きな所にでかけました。

第11日目（2／18日）President's Day

今日は、大統領の日で祝日。マウント・バーノンにバスで観光へ。今年はガイドさんが付き、かつ現大統領はアフリカに出かけていて不在だったため、しっかりワシントンの住んでいた家の中や博物館を観光しました。ワシントンは言わずと知れたアメリカの初代大統領ですが、今回彼の人物なりをはっきり知ることができて非常に面白かったです。ワシントンは、アメリカの「建国の父」とも言われるわけですが、独立戦争で将軍として偉大な活躍や功績を残しており、イギリスからの自由を勝ち取るための闘いにおける軍人としての功績がむしろアメリカでは讃えられていることがよく分かりました。

彼を王様にするという話もあったことには、びっくりでした。彼が王様になっていたら（アメリカが王政を取っていたら）、アメリカの歴史のみならず世界の歴史が大きく変わっていたことでしょう。しかし、彼は、自分の将軍としての地位を人民の代表機関たる議会に引き渡し、自らは辞任したために、アメリカは民主政治の途をたどることになったのでした！！（しかし数年後、議会の選挙により彼は初代大統領にまさに民主的に選ばれたわけです。）



また、トリビア的な話になりますが、ワシントンは、ダンスが上手で、多くの女性が彼と踊りたくて列をなしたという逸話がある一方、「ワシントンと桜」の話は実在しないことも分かりました。また、彼は、客を持てなすのが大好きな農場主でかつウィスキーの製造主でもあったことや、蛙のような緑色が好きでダイニングをその色に塗らせていたこと、ピーナッツをかじるのが好きだったため、わりと若くして入れ歯になり、大統領演説の時は新しい入れ歯が合わず、至 shortest のスピーチだったことなども判明。なお、妻のマーサ夫人とは、彼女が未亡人だったところを彼女の子連れで結婚。ワシントンは、マーサ夫人が亡くなった後は、奴隷を解放するよう遺言を残し、奴隷にも等しく自由を与えた人だったようです。二人の間に子供はなかったため、マウント・バーノンは甥が相続し、その後売却されるはめになったのですが、地元の婦人団体が寄付を募って購入し、従前の様子を維持してきたそうです。

ワシントンのそっくりさんのスピーチと当時の様子を伝えるパレードも見て、初代大統領になったワシントンがいかに公正明大で偉大であったかということと、アメリカの建国当時の雰囲気および精神がいかなるものであったかを、しっかり堪能した1日でした。

第12日目（2／19 火）白い家（White House）へ？！

初代大統領ワシントンは完成前で入ることのなかった大統領官邸「White House」に、私達は入りました（笑）。今年は、昨年の教訓を生かして、パスポートと地下鉄のメトロ・カード以外は持って行かなかったのも、セキュリティもなんとなくパスし、ホワイト・ハウスの中へ。ヨーロッパの趣を持つ個性的な部屋や、歴代の大統領の写真や肖像画を見てきました。意外にホワイト・ハウスが小さいため、見学は無事にあっという間に終わりました。

午後は通常の授業でしたが、夜に念願のNBAの試合を見に行った学生もいたようです。

第13日目（2／20 水）裁判の家（Courthouse）へ？！

今日は、バージニア州のアーリントン郡の地方裁判所へ。民事を見学しましたが、ほぼ

すべてが離婚事件でした。アメリカでは、州によって家族法も異なるわけですが、バージニア州の場合、双方無責離婚の場合、判例により、6ヶ月以上の別居期間の徒過や子供（養子含む）の有無などを考慮して、裁判で離婚が認められるようになっており、今日見学した離婚事件は、皆それらの事情についての当事者及び証人の尋問でした。

日本では、協議離婚が認められているので、夫婦は紙切れ一枚で離婚できなくはないわけですが、アメリカや他のキリスト教圏のヨーロッパの国では、離婚は基本的に裁判離婚しか認められておらず（∴「神が結びつけた二人を人は離してはならない」という教義による）、また一定の別居期間が離婚の要件であるにも拘わらず、離婚割合が日本よりもずっと高いというのは、不思議な感じもします。まあ、どこまで、自分の気持ちや感情に正直に生きるかにもよるのでしょう。日本でも、江戸時代は離婚がかなり多かったようなので、結婚と離婚の問題をはじめ、人生において何が幸せかは、仕事関係も含め、その人自身や社会や時代の考え方にもよるので、永遠の課題なのかもしれません。

裁判傍聴後は、Law Clerkの方に裁判官の豪華な執務室もいろいろ見せて頂き、その後は、昨年もインタビューさせて頂いた、郡のトップの検察官 Trodden 氏のお話を伺いました。今年も、学生達が積極的に質問し、かつ良い質問がいくつも飛び出したので、良かったなあと思いました。Good Questions!

ただ、昨年のような、有罪取引の是非や冤罪などの話まではあまりできなかったのが、少し残念でした。でも、お忙しい中、偉い方なのに、非常に親切に日本の学生達のために今年も時間を割いて下さるなんて、大変ありがたいことです。

ところで、今日の予定を午前中にすべて終えてしまったので、午後は自習になり、それぞれ個別インタビューの準備に時間を費やすことになりました。大粒の雪が舞ってきて寒い午後になったので、みんな早めにおうちに帰れたのはちょうど良かったことでしょう。

第14日目（2/21木）Supreme Court！

みんなは、午前中最高裁を見学し、午後は通常の授業でした。私はロースクールへ調べものに。残念なことに、最高裁は開廷の日ではなく、弁論手続や最高裁裁判官を見ることができなかったようです。私は最高裁へは後で個人的に行きましたが、展示のコーナーで、裁判官達へのインタビューのビデオが流れていたもので、それを見ました。それぞれの裁判官の生のコメントを見ることができて面白かったです。彼らはそれぞれ結論を出す前に議論をするらしいのですが、議論の前に結論を決めて来るのが、アフリカ系アメリカ人のトーマス裁判官。誰よりも早く議論の場に来て、議論が始まる前に議論をしているのは、女性のギンズバーク裁判官だそう。それぞれの個性を介間見ることができて面白かったです。最高裁裁判官にとっても、最高裁の裁判官になることは非常に神経を使うことであり、就任直後は、極度の緊張をしていたというコメントがあり、彼らも当然ながら人間であり、大きな任務をやりがいと責任を持って遂行していることがよく判りました。

第15日目（2/16金）Think Tank & Lobbyist

今日は、朝からまずはシンクタンクへ。昨年と同様、防衛戦略で有名なC S I Sを訪問し、今年は、数少ない日本人の研究員の方にお話を聞くチャンスを頂きました。

また、昨年はかなわなかったロビイスト（政府に様々な形で運動して国民の声を反映さ

せるべく活動する役職)にも、お話を伺うことができました。

昨年もそうでしたが、政治系の役職の方にお話を聞く機会はこのときだけなので、学生達もこれはこれで非常に興味を持って話をいろいろ伺ったようです。

(感想は、学生の日記参照)

第16日目・第17日目(2/17土・18日) **Totally Free!**

第三週目の週末は、お互い DC に慣れてきたので、まったくの自由行動に。ケネディ／センターのピアノ・コンサートに行った人やホロコースト博物館を訪れた人を初め、思い思いに好きなことをして週末を過ごしました。

第18日目(2/19月) 夢の4大制覇! **Plus Pentagon!**

昨年は、立法・行政・司法の3大制覇をしましたが、今年はそれに加えてアメリカの防衛の要である **Department of Defense** (通称、ペンタゴン) に行くことができませんでした！アメリカ人ですらこの4大制覇をなしとげた人はほとんどいない中で、私達はすごいことをしたことになります！**Great!**

ペンタゴンでは、お約束の9. 11の記念碑やこれまでのアメリカの防衛の歴史にまつわる展示を見ました。中には、当然ながら第二次世界大戦関係の物もあり、日本の降伏文書原文(日本は当時の首相葵重光が署名した)とその署名の際使われたペンや、ダグラス・マッカーサーの身につけていた物や彼が第一次世界大戦で活躍した際取得した勲章など(11個もあった!)も見ました。日本が敗戦したこと(アメリカが勝利したこと)をはっきり示す展示ですね。こういうものを見るのは、日本人としてはやはり若干つらいところです。ところで、ペンタゴンの窓はどこも黄色になっているようですが、これは特殊なガラスで暑さ・寒さに加え飛行機の衝撃にも耐えられるようになっているためだそうです。

また、**Native American** でアメリカに貢献した人々の展示もありました。知っている人もいたと思いますが、第二次世界大戦は暗号解読による頭脳合戦でもあり、アメリカ軍は日系アメリカ人兵士を通じて日本の暗号を解読し、真珠湾攻撃をすでに知っていたという有名な話がありますが(ただし、アメリカ側の言い分として、攻撃があることは知っていたがどこかは知らなかったという話もありますが)、他方でアメリカ軍は暗号にナバホ族の言葉を使っていたため、日本軍は解読できなかったという史実もあります。ナバホ族の言葉は普通のアメリカ人も知らない言葉なので、この暗号解読に各基地に配属された **Native American** が活躍したわけです。

言葉というのは、良くも悪くも、まさに武器になるという良い例でしょう。皆さんは、良い意味で言葉を武器にするべくこの研修に来ているわけですので、ぜひがんばって頂きたいところです。

今日で、すべてのエクスカーションが終了しました。どれも本当に有意義な所ばかりで、皆さんの人生にとって大いなる糧となる経験をしたことでしょう。

あ、まだ皆さんは個別インタビューとその発表という **Mission** (!) もありましたね。アメリカで活躍している様々な分野の方に、自分の関心に合わせて、直接インタビューできるのも、本当にすごいことです。立命館しかこんなすごいプログラムは持っていないと思いますので、これに参加できた皆さんは、本当に幸運だと思います!!

第 19 日目・第 20 日目（2 / 20 火・2 / 21 水）

通常の授業日。個別インタビューに行った人や最高裁に事件を見に行った人も。最後の週ですので、悔いのないようしっかり学びましょう。

第 21 日目（2 / 22 木）個別成果発表

みなさんの個別インタビューの報告、素晴らしかったです！インタビューされる人（interviewee）が素晴らしい方達ばかりであることもさることながら、みなさんもそれぞれ報告のパワーポイントや内容に工夫をこらしていて、非常に判りやすくかつよく考えられていました。

アメリカの刑事司法制度に関わるものから、外交政策・環境政策・農業政策、パレスチナ問題やボル・ポト政権における虐殺の問題や人権問題といった政治的な問題まで、幅広くお互いに教養を深めることができたと思います。

みなさん、3週間の成果をいかに発揮できたようで何よりでした。みなさんの成長ぶりには、毎年ながら目を見張っております。みなさんの人生において、この時期に日本と対極にあるアメリカの社会文化観に触れたことは、いろいろ大変なこともあったかと思いますが、かけがえのない貴重な人生の糧になることでしょう。

第 22 日目（2 / 23 金）修了式

今日は、お昼からメイン・キャンパスで修了式でした。今年はなんと教員用の豪華なレストラン（Faculty Club）で、ビュッフェ（英語では、バフエ）スタイルの食べ放題のお食事付きの修了式でした。本来、教職員用のところなので、学生は普段入れないのですが、今日は特別に入れてもらえたわけです。So nice!

アメリカらしい豪華なビュッフェで、スープやサラダに始まり、ソテーされた野菜や魚やお肉をチョイスしながら、自分の好みのものを心ゆくまで堪能しました。当然ながらデザートもいろいろ種類があったので、みんな食べきれないほど取ってきては、最後はおなかいっぱいになりながらも、がんばっていました（笑）。個人的には、ベリーチーズケーキ（色は黒紫な感じで一見びっくりですが）が新しいおいしい発見でした（笑）。修了式は、またまた感動で、やはり涙ぐむ学生も……。もりだくさんの課題を全部こなしてきた皆さんは、本当に素晴らしいと思います。大いに自信を持って下さいね。

夜は、ホスト・ファミリーと過ごす人以外は、大学のそばの有名なアメリカン・レストランである「Tomb(墓場)」で、アメリカらしいビッグ・サイズの食事を安く食べました。ハンバーガーは、焼き方をチョイスできるのがアメリカらしいですね。

アメリカでは最近また狂牛病騒ぎがあったようで、一部のファスト・フードや学校給食で狂牛病の牛肉が出回ってすでに食べられてしまっているとのニュースがありましたが、このお店は大丈夫と信じましょう（笑）。

今日で正規の予定はすべて終了。みなさんの本当に晴れ晴れした笑顔が印象的でした。

第 23 日目（2 / 24 土）最後の Weekend !

今年から一日余分に増えたため、みんなは最後に本当にリラックスした貴重な一日を過

ごすことができたことでしょう。

第 24 日目（2 / 25 日）帰国の途へ

振り返ってみれば、あっという間の 3 週間。「帰りたくな〜い」という声もありましたが、当然無理な話で、当日空港に 7 時半に集合。どうしても増えてしまった荷物を、なんとか重さ制限にかからぬよう小分けして一生懸命パッキングしてきたはずのみんなの成果がカウンターで明らかに？！今年は、何とか収まったようです。

アメリカの出国手続は、I-94 の紙片を空港カウンターに搭乗するときに渡すだけになり、飛行機も時間通りに出発し、到着時間も一時間早まり、帰りはすべてがスムーズでした。一人の荷物が届かなかったようですが、デトロイトに残されていたことが判明。NY 経由で関空に届けるとの連絡が入っていたようで、とりあえず一件落着。

今年度はさらにパワーアップしたプログラムで、みなさんも DC での様々な学びを満喫されたことでしょう。このアメリカでの研修は、いろいろ慣れないことも多く大変だったかと思いますが、みなさんの今後の進路や日本人としての自己のアイデンティティをいろいろ考える貴重な機会となったことと思います。これを契機に、より大きな視野をもった心の広い人間になって頂ければと思います。私も皆さんに負けないよう、何とかがんばっていきたいなと思っています。

マイナーなトラブルは今年もいろいろあり、ばたばたはしましたが、大事に至ることはなく、すべてが基本的に順調で良かったです。

繰り返しになりますが、こんな素晴らしいプログラムは立命館にしかないのです、このプログラムに参加できたみなさんは非常に幸運だと思います。私も、みなさんとともに、貴重な体験をまたすることができて良かったです。Thank you again!